
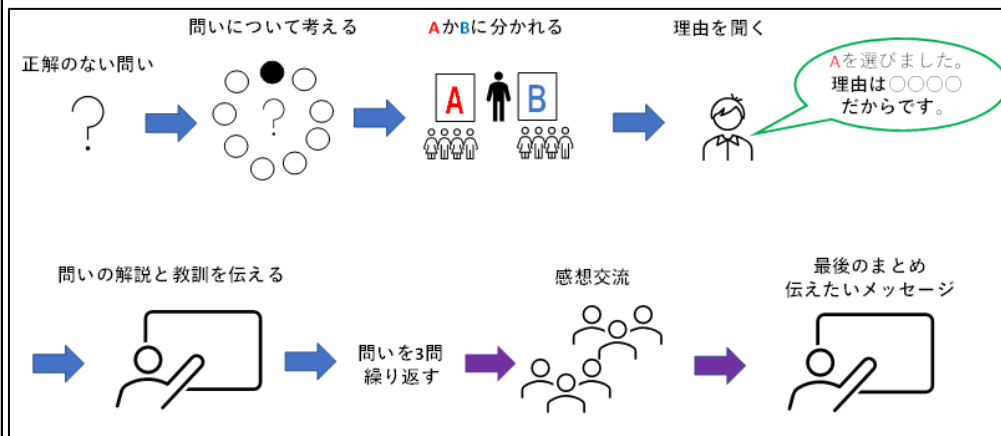


(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

| | | | |
|------------------|---|--|----------------|
| 教育・研究活動名 | 地域住民、大学と高校が連携した地域防災力向上のための実践的防災・減災活動 | | |
| 申請大学・高校等名 | 大学及び高校等名 | 兵庫県立大学 | |
| | 活動グループ名 | 防災リーダー教育プログラム | 参加学生等人数 22人 |
| 指導責任者名及び連絡先 | 学部・学科等名称 | 兵庫県立大学防災教育研究センター | |
| | 責任者氏名 | 浦川 豪 | 連絡先電話番号 |
| | E-mail | | |
| 協働する市民活動団体及び代表者名 | 団体名 | Human Relations SHIN 杭瀬団地社会福祉連絡協議会自主防災会 | |
| | 代表者氏名 | 新山 千恵 増田 勝美 | 連絡先電話番号 |
| | E-mail | | |
| 教育・研究活動目標 | (地域の福祉課題の解決に向けた目的及び目標について記載してください。) 尼崎小田高等学校が立地する地域が直面しているハザード、脆弱性を理解し、市民団体及び高校と連携した地域防災活動を実施し、当該地区の地域防災力向上に貢献する。また、大学生が上記を学び、地域住民向けの公開イベントや小学校等への防災教育内容を企画し、実践する。地域の防災訓練で民生委員と学生や生徒と連携した安否確認訓練に参画する。 | | |
| 活動内容及び実績、評価 | (活動内容及び実績) 大学生(防災リーダー教育プログラム所属学生)が、阪神・淡路大震災の被災者の体験や活動等を学び、他の未災者に伝えるためのまちあるきツアーを以下のように実施した。 日時 2022年10月22日(土)10:45~11:45 場所 HAT 神戸なぎさ地区 参加者 20名ほど 内容 まちあるきをしながら震災の教訓や復興の取組みと、地域防災とまちづくりの取組みをツアー形式で伝える 担当 大学生5名がツアーガイドを担当(他の大学生はツアーに参加) | | |
| |  | | |
| | 写真:まちあるきツアーの様子 | | |
| | まちあるきツアーの企画、実施を通して学生は被災者から以下を学んだ。 ・つながりづくりが大事 →万全な防災対策はできない →“近助”お隣さんだけでも助ける ・震災から今まで頑張ってきた | | |

→未災者に伝えていく必要あり
 まちあるきツアーや大学の講義などで学んだことを未災者である小学生に伝え、将来の地域防災を担う「防災リーダー」育成を目的とした出前講座を以下のように実施した。
 日時 2022年12月20日(火)10:45～11:30
 場所 尼崎市立花西小学校
 テーマ 「防災リーダーに俺はなる!!」
 対象 小学6年生 約100名
 参加者 学部生(7名)と尼崎小田高校の生徒(約20名)
 内容 防災クロスロードゲーム



図にクロスロードの流れしめす。参加者(小学生)は2者択一の設問のいずれかを選択し、その理由を考えクロスノートにまとめ参加者と共有する。大学生は設問の解説と教訓を小学生に伝える。

| | |
|---|--|
| <p>問題1 地震が起きたとき、被害を減らすために建物をがんじょうにしておくべきという意見もある。一方で、被害を減らすためには近所との関わりを大切にすべきという意見もある。 A 建物を強くするべき B 地域づくりを優先するべき</p> | <p>問題3 ひなん所の食べ物と水は最低限あるが十分ではなく、追加の食べ物と水が届くのを待っている。あなたは3日分の食べ物と水を準備しているが、周りの家族は持ってきていない。 A 周りの人に配る B 配らない</p> |
|---|--|

図: 設問の例



写真: 出前講座の様子

最後にこれらの取り組みを兵庫県立尼崎小田高等学校看護医療・健康類型(2年生)主催の以下の報告会に参加し、学部生が地域住民に報告した。
 日時 令和5年3月4日(土)9:30～11:45
 場所 尼崎市立園田東生涯学習プラザ3階ホール
 参加者 学部生(4名)



写真: 報告会の様子

(評価)

① 学生等 ② 市民活動団体の活動者 ③ 指導教員の視点を踏まえて、次の項目について評価・分析したものを掲載してください。

・想定していた活動成果に対する達成度合い(達成できたこと、できなかったこと等)

学部生がまちあるきツアーの企画、実施に参加し、阪神・淡路大震災の被災者から学んだことをまとめ、小学校での出前講座を実施し、被災者→未災者(学部生)→未災者(小学生)の形を作ることができ、当初の活動予定の内容を達成することができた。当初予定していた地域の防災訓練で民生委員と学生や生徒と連携した安否確認訓練は、学部生の専門科目講義と訓練実施日が重なり参加することができなかった。

・学生等が関わった地域、団体の活動の変化等

小学生を対象とした出前講座に参加した児童からは以下の意見が出た。出前講座に参加することで防災意識が高まったことがわかる。

-災害時のイメージをすることができた。家族やまわりの人といざと言うときの話をしておきたい。

-災害時には冷静な判断が必要だと思った。

-友達の意見を聞いているんな考え方を交流することができたのが楽しかった。

-「自分で意見を決める」という行動がいざというときにできるようになりたい。

-地域の人たちとのつながりが大事だと思った。そのためにあいさつから始めてみようと思う。

-災害時は自分だけでなくまわりの人も大切にしたい。

-災害に備えて自分たちにできることもあるのだと知った。

-自分ひとりの力では命を守れないと思った。

-学んだことを忘れないようにして、災害時に活かしたい。

・学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等



写真: 学生によるふりかえりの様子

活動後、学生のふりかえりを通して以下の成果と課題に関する意見が出された。自分達がかつ知識を得ることといった学習意欲の向上、地域活動の意義の理解が深まった

ことが分かる。

- 自分たちももっと防災・減災・地域づくりの勉強しないといけないと思った
- 防災に必要な知識や考え方をゲーム形式で考えてもらうことができた
- 地域との交流が防災に繋がるという「共助」「近助」の大切さを伝えられた
- 時間が限られていたので、リハーサルや実施できる問題数が少なかった
- 学生の事前シミュレーションと本番では時間の配分に大きな差があった
- 小学生向けに分かりやすく配慮する必要がある

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。